

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

山形県鶴岡市

2023年9月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

鶴岡市 SDGs 未来都市計画

森・食・農の文化と先端生命科学が共生する“いのち輝く、創造と伝統のまち 鶴岡”

—

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

鶴岡市 SDGs 未来都市計画 森・食・農の文化と先端生命科学が共生する“いのち輝く、創造と伝統のまち 鶴岡”

## (2) 2030年のあるべき姿

森・食・農・先端生命科学の「いのち」を素材とした地域資源が、Society5.0 や未来技術等を介して産業経済の自律的好循環を生む。市民が幸せと思える豊かさを追求し、暮らしやすさを実感できる「いのち輝く創造と伝統のまち」を目指す。

- ① LOCAL-HUB 高い生産性と自立・循環的な経済を有する都市拠点
- ② Well-being Community 市民が将来にわたって健康で安心して生きがいを持てる豊かな地域
- ③ Regional-CES 豊かな森里川海の活用、資源循環型社会の形成

## (3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



## (4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	農業産出額【2.3】	2016年 307 億円	2022年 集計中	2028年 400 億円	集計中
2	観光入込客数【8.9】	2018年3月末 631 万人	2022年 428 万人	2028年 790 万人	-128%
3	高等教育機関・研究機関の研究成果などから誕生した本社を本市に置くベンチャー企業（従業員4名以上）の数（累計）【9.4、9.5】	2018年3月 5 社	2022年 5 社	2028年 9 社	0%
4	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合【4.1】	2017年 78 %	2022年 76 %	2028年 84 %	-33%
5	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合【4.1】 ・他者との協働や共生について考えている子ども	2017年 43 %	2022年 62 %	2028年 57 %	136%
6	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合【4.1】 ・学んだことを日常に生かそうとする子ども	2017年 82 %	2022年 調査項目変更により調査未実施	2028年 87 %	-
7	子育てのしやすさに対する満足度「子育てしやすい」と思う保護者の割合【3.2、4.2】	2019年 27.6 %	2022年 20.6 %	2028年 50.8 %	-30%
8	学校給食に対する満足度「給食がおいしい」と思う児童生徒の割合【2.1、4.7】 ・小学生	2013年～2014年 75.2 %	2022年 96.9 %	2028年 80.2 %	434%
9	学校給食に対する満足度「給食がおいしい」と思う児童生徒の割合【2.1、4.7】 ・中学生	2013年～2014年 55.3 %	2022年 95.6 %	2028年 64.2 %	453%

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

10	がん検診受診率【3.7、3.8】 ・胃がん検診受診率	2017年	32.7 %	2022年	29.5 %	2028年	36.6 %	-82%
----	-------------------------------	-------	--------	-------	--------	-------	--------	------

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
11	がん検診受診率【3.7、3.8】 ・大腸がん検診受診率	2017年 38.9 %	2022年 38.0 %	2028年 41.2 %	-39%
12	がん検診受診率【3.7、3.8】 ・肺がん検診受診率	2017年 41.1 %	2022年 39.5 %	2028年 43.9 %	-57%
13	がん検診受診率【3.7、3.8】 ・乳がん検診受診率	2017年 23.7 %	2022年 20.6 %	2028年 24.7 %	-310%
14	がん検診受診率【3.7、3.8】 ・子宮がん検診受診率	2017年 32.6 %	2022年 30.8 %	2028年 35.0 %	-75%
15	エネルギー自給率【7.2、7.3】	2019年3月 29.5 %	2022年 31.5 %	2028年 34.0 %	44%
16	温室効果ガスの削減（2015年の温室効果ガス排出量を基準とした削減率）【13.1、13.2】	2017年3月 913.2 kt-co2 ※2019年度統計改定後の算定方法値	2022年 国が実施する調査のため、公表待ち	2028年 828.6 kt-co2 ※2018年度統計改定後の算定方法値	-

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・No.8「給食がおいしい」と思う児童生徒の割合及びNo.16温室効果ガスの削減（2015年の温室効果ガス排出量を基準とした削減率）【13.1、13.2】など順調に推移している指標もある。
- ・No.10-N.14がん検診受診率やNo.2観光入込客数、No.4児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合は継続して実施された新型コロナウイルス感染症対策の影響により、進捗に停滞がみられた。
- ・No.10-N.14がん検診受診率については、ワクチン接種の推進と感染予防対策を継続するとともに、がん健診受診の重要性についての周知等市民に対し行うことで、受診率を高めていく。
- ・No.2観光入込客数については、同様にコロナ禍であった令和3年度と比較すると観光者数の回復が図られているところである。引き続きポストコロナの観光振興に取り組むと共に、コロナ禍前の外国人旅行者の入り込み実績を踏まえ、観光コンテンツの開発やプロモーションの強化、旅行会社やメディアの招聘に取り組むことで、観光客数の増加を図っていく。
- ・No.4児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識については、新型コロナウイルス感染症対応による学習活動や学校行事の中止や縮小が影響していると考えられることから、新型コロナウイルス5類移行後の学校教育の在り方を十分に検討し、地域と連携して自己肯定感や共働・共生の意識が高まるような教育課程を編成するよう各小中学校に指導・助言を行うこととする。
- ・No.7 子育てしやすいと思う保護者の割合に関する項目が低迷しており、特に経済的な負担感の大きさに不安を抱えている方が一定数いる。そのため本市では保育料や給食費、医療費の負担軽減策を講じることで、財源の確保に取り組むとともに、子育て世代のニーズが施策に反映されるよう努める。
- ・本指標については、当市の第2次総合計画（政策）と連動しており、2023年度に行われる計画見直しを踏まえ、全庁横断的に目標値に向けて取り組むこととする。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	高等教育研究機関、ベンチャー等の集積を生かした自律的好循環による産業経済の発展に向けた取組	高等教育機関・研究機関の研究成果などから誕生した本社を本市に置くベンチャー企業（従業員4名以上）の数（累計）	2018年3月 5社	2020年 5社	2021年 5社	2022年 5社	2022年 6社	0%
2	豊かな森里川海の資源を生かした観光・食・農林漁業のブランド化と活性化に向けた取組	観光入込客数	2017年3月末 631万人	2020年 601万人	2021年 337万人	2022年 428万人	2022年 760万人	-157%
3	デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組	・胃がん検診受診率	2017年 32.7%	2020年 27.5%	2021年 29.7%	2022年 29.5%	2022年 34.0%	-246%
4	デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組	・大腸がん検診受診率	2017年 38.9%	2020年 35.1%	2021年 37.9%	2022年 38.0%	2022年 40.3%	-64%
5	デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組	・肺がん検診受診率	2017年 41.1%	2020年 36.5%	2021年 39.4%	2022年 39.5%	2022年 42.8%	-94%
6	デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組	・乳がん検診受診率	2017年 23.7%	2020年 20.9%	2021年 20.4%	2022年 20.6%	2022年 24.3%	-517%
7	デジタル化・Society5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組	・子宮がん検診受診率	2017年 32.6%	2020年 30.4%	2021年 30.4%	2022年 30.8%	2022年 34.0%	-129%
8	鶴岡型ESDの構築とコネスコ創造都市ネットワークの活用に向けた取組	学校給食に対する満足度「給食がおいしい」と思う児童生徒の割合 ・小学生	2013年～2014年 75.2%	2013年～2014年 75.2%	2021年 77.9%	2022年 96.9%	2022年 77.0%	1206%
9	鶴岡型ESDの構築とコネスコ創造都市ネットワークの活用に向けた取組	学校給食に対する満足度「給食がおいしい」と思う児童生徒の割合 ・中学生	2013年～2014年 55.3%	2013年～2014年 55.3%	2021年 67.5%	2022年 95.6%	2022年 58.0%	1493%
10	歴史と伝統を学びながら新たな時代にも対応する学校教育の推進に向けた取組	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合 ・自己肯定感を感じている子ども	2017年 78%	2020年 コロナ禍により調査未実施	2021年 79.6%	2022年 76.0%	2022年 80%	-100%

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

11	歴史と伝統を学びながら新たな時代にも対応する学校教育の推進に向けた取組	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合 ・他者との協働や共生について考えている子ども	2017年 43 %	2020年 コロナ禍により調査未実施	2021年 96.3 %	2022年 62.0 %	2022年 55 %	158%
----	-------------------------------------	---	------------	--------------------	--------------	--------------	------------	------

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

No	取組名	指標名	当初値	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2022年目標値	達成度(%)
12	歴史と伝統を学びながら新たな時代にも対応する学校教育の推進に向けた取組	児童生徒の自己肯定感や協働、共生の意識「全国学習状況調査」における割合 ・学んだことを日常に生かそうとする子ども	2017年 82 %	2020年 コロナ禍により調査未実施	2021年 調査項目変更により調査未実施	2022年 調査項目変更により調査未実施	2022年 83 %	-
13	子どもを産み育てやすい環境の充実に向けた取組	子育てのしやすさに対する満足度「子育てしやすい」と思う保護者の割合	2019年 27.6 %	2020年 調査未実施	2021年 調査未実施	2022年 20.6 %	2022年 34.8 %	-97%
14	再生可能エネルギーなどの活用による市民・企業の低炭素化に向けた取組の展開	エネルギー-自給率	2018年3月 29.4 %	2020年 29.5 %	2021年 31.4 %	2022年 31.5 %	2022年 31.7 %	91%
15	豊かな地域資源の保全・活性化による災害にも強い地域循環共生圏の構築に向けた取組	温室効果ガスの削減（2015年の温室効果ガス排出量を基準とした削減量）	2017年3月 913.2 kt-co2 <small>※2019年度統計改定後の算定方法値</small>	2020年 836.1 kt-co2	2021年 国が実施する調査のため、公表待ち	2022年 国が実施する調査のため、公表待ち	2022年 927.4 kt-co2 <small>※2019年度統計改定後の算定方法値</small>	-

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

SDGsの「宣言」、「登録」制度を創設し、SDGsの推進に取り組む地域の企業、NPO、団体、教育機関を「つるおかSDGs推進パートナー」としての登録制度を推進した。パートナーには登録証、市公式ロゴマークのステッカーを贈呈するとともに、市ホームページで取組内容等を紹介し、SDGs達成に向けた取組の見える化を進め、市民、幅広い市内企業・団体等、SDGs達成に取り組む主体のすそ野の拡大を図った。令和4年度末において99団体を登録している。

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・No.1 高等教育研究機関、ベンチャー等の集積を生かした自律的好循環による産業経済の発展に向けた取組については、鶴岡サイエンスパーク内で2021年に誕生した新たなベンチャー企業が2社の従業員数は創業間もないが着実に増加しており、引き続き安定した企業活動に向け、施設整備などの支援を図る。
- ・No.2 豊かな森里川海の資源を生かした観光・食・農林漁業のブランド化と活性化に向けた取組やNo.3-No.7 デジタル化・Society 5.0の活用によるヘルスケアなど市民の生活環境の向上に向けた取組、No.10-No.11 歴史と伝統を学びながら新たな時代にも対応する学校教育の推進に向けた取組については、継続して実施された新型コロナウイルス感染症対策の影響で、進捗に停滞が見られたものの、5類移行後におけるポストコロナのあり方を踏まえ、No.2については、観光コンテンツの開発やプロモーションの強化、旅行会社やメディアの招聘、No.3-No.7は健診の重要性の周知、No.10-No.11は縮小されていた学校行事の再開やあり方の検討を行う。
- ・No.8-No.9 鶴岡型ESDの構築とユネスコ創造都市ネットワークの活用に向けた取組として、郷土料理や地元の食材を使用した給食の提供により、目標値を大幅に上回る結果であった。
- ・No.13 子どもを産み育てやすい環境の充実に向けた取組に関する項目は低迷しており、特に経済的な負担感の大きさに不安を抱えている方が一定数いる。そのため本市では保育料や給食費、医療費の負担軽減策を講じることで、財源の確保に取り組むとともに、子育て世代のニーズが施策に反映されるよう努める。

## (4) 有識者からの取組に対する評価

- ・積極的な連携施策により、体制が着実に構築されてきたと評価できる。持続的な発展に繋がるよう、具体的な取組を引き続き、積み上げていくことを期待する。
- ・学校給食に対する児童生徒の評価が急速に向上しているのは興味深い。
- ・個々の先端的な取組を、どのように地元の取り組みに繋げていくのかに関しても引き続きの検討が望まれる。
- ・子育て環境については課題があるように見受けられ、改善に向けた検討が必要と史料する。